

## 江戸時代から伝わってきた伝統音楽の主な音階

陰音階（都節音階）

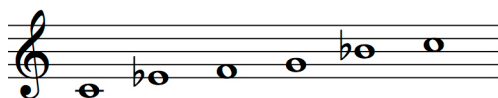
注 江戸時代から近代日本に伝わってきた音楽（特に都会で歌われる歌や演奏される器楽曲）にはもっとも多く応用される音階



陽音階（律旋法）



民謡音階（一例）

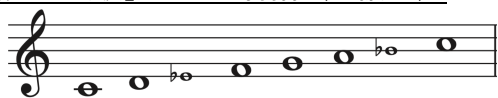


琉球音階

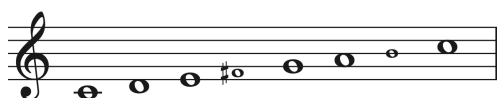


### 「保育唱歌」と「皇典講究所唱歌」の主な音階（理論上）

律旋



呂旋



太食調



水調



### 「保育唱歌」と「皇典講究所唱歌」の主な音階（主な応用例において）

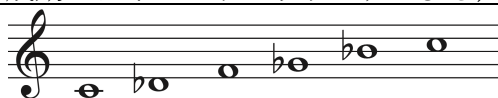
律旋



呂旋



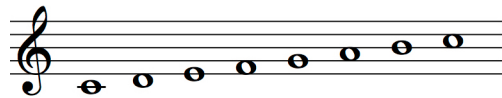
### 「神教歌譜」の音階（平成期のフィールド・リサーチによる）



<sup>みんしんがく</sup>  
明清楽の音階（一部、多分！）（上から下へ使用の頻度が下がる）



西洋音楽の音階



長音階

注 アメリカ経由に入ってきた讚美歌および明治期日本で新たに作られた讚美歌と、「小学唱歌集」に含まれた唱歌と明治時代に新たにできた（西洋系の）唱歌、軍歌等の大多数は長音階（あるいは下記のヨナ抜き長音階）を使っている。



和声的短音階



旋律的短音階

「和洋折衷」を基本にし、日本近代の多くの新作に使われてきた音階

（西洋の七音音階から二つの音を抜かすことによって生じた五音音階）



<sup>ヨナ</sup>  
四七抜き長音階



<sup>ヨナ</sup>  
四七抜き短音階



二六抜き短音階



陰音階と短音階の折衷